

Project プロジェクト

R2年12月1日号
放射線タウン情報

2020.12.1 発行 No.27
【編集発行】
南相馬市健康づくり課
☎0244-44-2121



コミュタン福島ってなに？？

福島県環境創造センター交流棟（愛称：コミュタン福島）は、放射線や環境問題を身近な視点から理解し、環境の回復と創造への意識を深めることを目的とした施設です。コミュタン福島では学びや体験を通して、子どもたちや様々な団体がそれぞれの立場から福島の未来を考え、創り、発信するきっかけとなる場を提供しています。愛称の「コミュタン福島」は、英語のコミュニケーション（交流）と福島県のマスコットキャラクター「キビタン」を合わせた言葉です。

コロナ禍における開館状況



※館内では、左写真のとおり出入口等にアルコール消毒を設置し、感染予防対策の案内が掲出されています。そのほかの対策については、ホームページ（下記QRコードからアクセス可）をご参照ください。



対話と共創
主体的に学ぶために
そして

コミュタン福島 展示の目玉

館内には、福島第一原発事故や放射線に関することはもちろん、SDGs（エスディーゼス：Sustainable Development Goals=「持続可能な開発目標」）という、貧困、資源の枯渇、気候変動などの世界的な課題に対し、2030年までに達成すべき目標についての学びや、土日祝日には小さいお子さんから大人までが楽しめる科学体験やクラフト教室などのイベントも行われていますので、利用方法は人それぞれ。その中でも今回は、以下の3つの展示について紹介します。

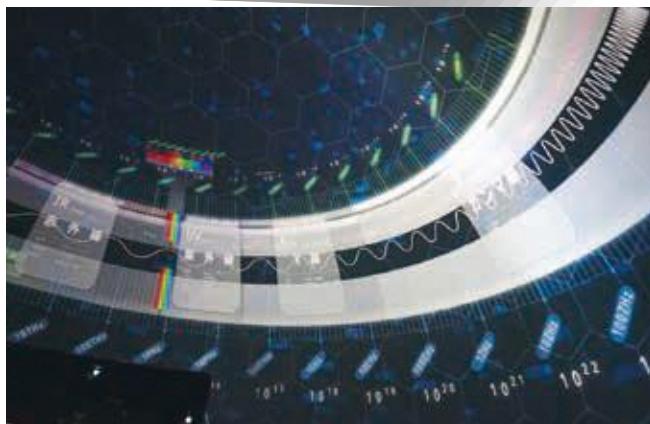
① 大型霧箱



この霧箱は、常時マイナス50℃で冷却され、疑似的に霧を発生させます。また、放射線源となる物体は入っておらず、館内の空気を取り込んで、完全に自然放射線のみの飛跡を観察することができます。霧箱の展示は、感覚として感じることのできない放射線を可視化することで、身近な存在であることを学ぶとともに、原発事故由来のように余計な被ばくに対する注意を喚起するねらいがあります。子どもたちも夢中になって見入ってしまうほど人気のある展示です。

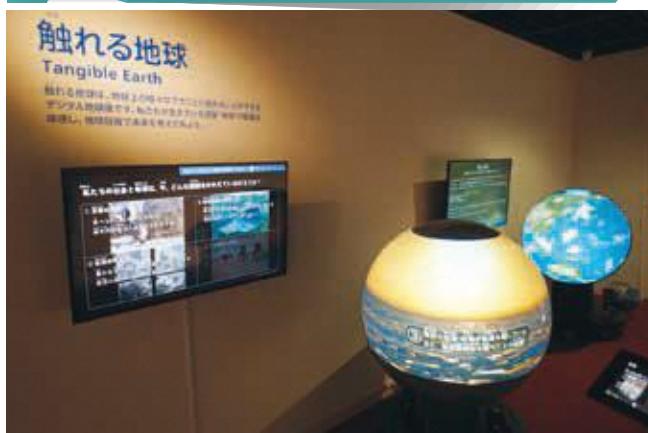
上下左右どこを見渡しても大迫力の映像と音響空間を実現し、球体型スクリーン全面に360°の映像を映し出す「全天球映像システム」で、同様の常設設備は日本でも、国立科学博物館（東京都）にしかありません。放射線について学ぶ「放射線の話」のほか、福島の豊かな自然や文化などを紹介する「福島ルネッサンス」が毎日上映されるほか、土日祝日には国立科学博物館オリジナル番組も視聴することができます。

② 環境創造シアター



地球上の様々なできごとに触れることができるデジタル地球儀で、地球規模で起こっている問題の中から自分でテーマを探して、主体的に未来を考えるための展示内容になっています。例えば、地球温暖化のシミュレーションを見ると、現在のペースで温室効果ガスが排出され続けると、最終的には北極にまで影響が及ぶ様子が経年変化で映し出され、それを見たお客様はきっと、環境問題についてどう対応していくべきかを考えるでしょう。

③ 触れる地球



コミュタン福島では、放射線だけでなく、私たちの暮らす環境について総合的に学べる施設です。まだまだ紹介しきれない魅力や企画がありますので、ぜひ公式ホームページなどでチェックしてみてください！ (<https://www.com-fukushima.jp/>)